

地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
<b>1. 理念と共有</b>				
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	ホーム独自の理念をあげ、実施はしている。上司からの助言をいただいている。	○	結果にどう出ているかを話し合ったことがないこともあり、振り返りの機会をつくり個々を見直す。
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	共通な考えの中での取り組みは出来ているが、浸透にまでは至ってはおらず、不十分などもある。	○	理念の実践にむけては、現段階でも行っているが、ミーティング等で再認識、振り返りの場をつくっていく必要があると思われる。
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	理念に基づいたケアの実践を行っていることを広報や面会時に伝えてきている。	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家族はどう思われているのか、家族の思いを今一度しっかりと聞き出し、ケアの一員として一緒に取り組んでもらう中で、より一層の理解を得ていく。</li> <li>・ひだまり新聞発行。</li> </ul>
<b>2. 地域との支えあい</b>				
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	隣近所が少ない地域ではあるが、接点の減少や、挨拶程度にとどまっている。気軽に立ち寄られることは無い状況にある。	○	ホーム内行事(カフェ、季節行事)を行っている中で、地域やボランティアに積極的な声掛けをおこない、交流を深めていけるように、行動を起こしていく。
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホーム便りの発行にて、近隣の自治会への配布をおこなっている</li> <li>・少ない機会ではあるが、文化祭、お祭りへの参加はおこなった。</li> </ul>	○	積極的に交流の参加をしていくことにより、ホーム内ばかりでの生活にならないように支援していく中で、地域の方々にホームのことも理解をしていただくよう努めていく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	特に取り組みはない。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	改善については、主にミーティングにて、反省や見直しを行い改善への取り組んでいる。	○	さらなるホームとしての方向性を決め、自己評価や外部評価を通し取り組んでいく。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議内容をミーティング等で周知し、改善のポイントを見直し、またきっかけとなっている。	○	サービスの向上に向けては、会議で出た意見をもとにし、またホームの状況をしっかりと把握したうえで、何をしていくべきなのかを考え取り組んでいく。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる			
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	成年後見制度、権利擁護事業を活用されている方の入居はあるが、内容については全職員できていない。	○	今年度中に学習会の予定は計画されている。制度への確実な知識への理解に努めていく。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	園内全体での取り組み、学習の場が設けられている。	○	再認識の場が少ない状況にある。社会的にも問題視されていくこともあり、確実な知識を学び、理解していき、他の職員とも共有し合っていく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明がなされており、理解を得ている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・第三者委員の設置、廊下等にもポスター等での苦情が表せれるところがあると掲示している。 ・定期的な第三者委員の来訪により聞き取りの実施があり、入居者の意見や、不満に対しては運営に反映させている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	・常に来訪時には、細めに報告できている。ただ家族の来訪が少ない家族や、遠方であると報告が出来ていない状況にある。	○	・金銭管理や便りの送付はできているが、日々のくらしぶりの情報が、来訪が少ない家族や、遠方の家族に対しては、今後内容の充実化を図っていく。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・意見箱の常設、家族会等でも場が設けられており、第三者の連絡先の掲載したポスターの掲示。 ・運営推進会議への参加がある。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	実施はある。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	常に対応しており、調整には努めている。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	最小限になるように努めている。異動後も、心のケアに努め配慮している。	○	馴染みの職員の支援が受けられるよう望まれるところもある。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
<b>5. 人材の育成と支援</b>				
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	外部への研修だけでなく、園内研修も実施されている。	○	研修については、参加への回数が多くてもよいと思われる。
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	実施はある。		
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	休憩時間の確保には、配慮をおこなってもらっているが、十分に取れていない状況が続いている。	○	より良いケアを提供していくためにも、確実な休憩時間の確保。
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>			
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>				
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	ある程度は聞き出せてはいるも、奥深いところまで聞き出せておらず、機会も少ない状況にある。	○	個別で対応することでの個人個人の思いの把握に努め、アセスメント等も含めたうえで聞き取る努力や、受けとめられる人間への成長。
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	ある程度の範囲は聴けているが、奥深くなく、聴く機会が減少にある。	○	関係作りをはじめ、家族の意向の理解に努める

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ホーム長からの助言により努めている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	・大きな取り組みはない、家族の意見が主に重視されていることが多い。 ・入居前に実際に見学をされてから決められる方もおられる。		サービスの開始にあたっては、ホーム内でも考え方の話し合い、方向性を出していく必要がある。
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	同じ目線、立場に立ち過ぎないように努めてはいるが、こちらが主体になりがちになり、ペースをつくってしまっている事がある。	○	入居者主体で行うことを職員が意識的に取り組む。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	出来ていると思われる家族もあるが、こちらからの促し不足なところもあり、ケアの一員といえないところがある。	○	・家族を巻き込んだケアに取り組む。 ・ケアに参加しやすい関係作り、本人を支えていく為に、家族にとってはどんなことが必要にあるのかを探る。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	出来ていると思われる家族もあるが、こちらからの促し不足なところもある。	○	家族間の関係をしっかりと把握して中で、関係を継続できるように支援していく。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	途切れてしまわないように努めてはいるも、馴染みの継続をされている方は、ほとんどおられない状況にある。		出来るだけ途切れないように取り組み、継続を行って行く中で家族の協力を得ながら、ケアに巻き込むことを意識的に行う。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	努めてはいるが、能力等によって差が生じてしまっているところがあり、なかなか関わり合いが持てない状況にある。	○	入居者同士の関係作りは、職員が間に入り出来るだけ能力差を生じさせないようにして取り組んでいく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	特に取り組みはない		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・できるだけ本人の想いを大事にし、取り入れるように努めている。意向に沿った援助に努めている。 ・自己決定の場を設けるように意識している。	○	自己決定については、全職員で取り組みを行っていくことで、更なる一人ひとりの暮らしの充実を目指していく必要があるように思われる。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・把握については初期の段階でとどまってしまうところもある。 ・積極的ではないが、情報が必要な際には把握に努めている。	○	・アセスメントの充実化。 ・支援の方向性の決定をしていく。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	・毎日の記録、申し送りにて把握をおこなっている。 ・より詳しく把握するために直接当事者に聞くこともしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	・できるだけ本人の意向を取り入れ、家族の意向も大事にしたうえで、本人にとって必要性を感じることを第一とした介護計画の作成に取り組んでいる。 ・家族の意向については十分に聞き出せていない方もある。	○	話し合い等の不十分などところの改善に取り組み、意見や思いを把握した中で必要とするものを、しっかりと計画に取り込んでいく。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	・ホーム長の助言をいただきながら計画の作成に取り組んでいる。 ・できる限り、期間内での見直しに取り組んでいる。	○	見直し時期を明確し、必要な関係者の意見を反映できるようにしていく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・変化等のある際の事柄は、特に細かく記録し残せている。 ・気づきノートにより、職員が気づいたことを何でも記入でき、改善にむけての目安となるようになっていく。カンファレンスの課題ともなっている。	○	・できるだけ多くの職員と気づきのカンファレンスを行い、より良い暮らしの実現にむけて取り組んでいく。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	・正月や盆等の際には、家過ごされたり、外泊されたりとそれぞれに対応できている。 ・外出の希望時には対応できている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	・ボランティアの受け入れは常時おこなっている。	○	地域の方、ボランティアなど積極的に招き、入居者の方と関わりを持っていただけるように支援していく。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている			
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している			
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・それぞれの希望を取り入れるようにしている。 ・受診の介助や、協力が難しい家族には意向により往診という形で対応している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	・専門医の確保はできている。診断、治療は受けられる体制になっている。 ・助言については特に無い状況にある。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護師の不在により、主治医を始め、医療関係者との連携をとり対応している。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	病院、家族で話し合いがされており、必要に応じて施設職員の参加もある。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	特に決定的な方向性での話し合いは進んではいない状況だが、概ねの思いは聞いている家族もある。	○	・家族、医療を交え考え、想いを聞きだし、ホームとしてどれだけ十分対応できるのかを確認し、方向性をつくり出していく。 ・家族の思いを聴き取る
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	・詳しく話し合いがなされているわけではない。 ・現状から見て、ある程度のホームとしての出来ることを伝えていっている状態	○	ホーム側での方向性の決定
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	できるだけ情報をいただき、今までの生活の継続を行えるようにしている。家具等の馴れ親しんだ生活用品の持ち込みもお願いをしている。	○	随時アセスメントの聞き取りを行い、ダメージへの軽減に努めていく



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>				
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	・常に心がけているも、尊重をした声掛けに欠けているところがある。 ・気の緩みも出てしまい、慣れ慣れしさが出てしまっていることもある。 ・会議での指摘、再確認をおこなっている。	○	再認識の場の確保、職員同士で言い合える関係作り。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	・十分に傾聴を行うことを心がけてはいる。 ・思いや、希望を言いやすいように接している。	○	思い、希望を表現できにくい方は、こちらからの積極的な理解に努め、また働きかけることによって、より充実した暮らしを送ってもらえるようにしえん支援していく。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・ペース、考えを大事にするようにはしているが、十分でない場もあるようにも思われる。 ・ついこちらのペースで入居者を巻き込んでしまっているところもある。	○	・個々の思いをしっかりと受けとめる支援をする。 ・自分たちのケアについての振り返りの機会をつくり、見直していく。
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	・散髪は可能な限り希望や、行きつけの店に行けられるように支援している。 ・服装についても、できるだけ選ぶことができる方には選んでもらうようにしている。	○	身体状況によっては、安全に配慮をした対応をする。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	・出来る方だけが台所に立つのではなく、いろいろな形で調理や、片付けに加われるように支援を心がけているところもあるが、職員側でおこなってしまっていることが多くなっている ・負担なく、無理なく出来るように配慮をしている。	○	少しでも残存機能を生かして、食事自体を楽しみにしていただけのように取り組んでいく。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	すべての方ではないが、今までの生活の継続に努めている。		本人にとって楽しみとなるようであれば、家族との意向等聞き取り、とり入れていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	・ある程度の排泄パターンを把握したうえで誘導を行っている。 ・オムツの使用の減少には努めているが、不快感をとり除き、心地よく過ごしていただくように支援している。	○	・排泄パターンの把握。 ・不快感の軽減に努める。 ・残存機能維持。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	・ある程度の時間帯の中で、一人ひとりの希望、入浴間隔に合わせて支援している。 ・こちらでの都合での誘い掛けになっている。	○	できるだけ本人の希望を取り入れ、入浴が今以上の楽しみとなるように努める。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	・様子を伺ったり、その方の生活パターンを把握した中で、居間や居室で休息の時間を持ってもらっている。 ・就寝時間も個々の方で出来るだけ統一した時間帯で休んでいただけるように支援している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	・自分から希望されたり、意見が言える方の主張が強くなってしまっている状況にある。 ・身体状況により、外出の機会が少なくなった方、今まで出来ていたことが出来なくなった方への、役割等十分に見出せていないところがある。	○	・出来るだけ一人ひとりに役割や、楽しみとなるようなものを持っていただくように支援していく。 ・役割や楽しみを継続して提供していく。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・こちらでの管理が主になっている状況である。 ・お小遣い程度の所持の訴えをされる方もある。	○	・お金の使用の機会の提供。 ・本人の力量を把握した中で、所持していただき、大切さや社会との関係を持っていただけるように支援していく。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	・家族の協力もあり、出掛けられる方もおられる。 ・希望時は、出来るだけ応じるようにしたり、こちらから誘い出掛けられている。 ・外出の機会の提供はできている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	・すべての方ではないが、地域に出掛けれる機会はつくれている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	はがき等での便りがある方はおられるが、一方通行になってしまっており、やりとりに至っていない状況にある。	○	個々の能力に応じて、家族やその他の方とのつながりを大切にする意味でもとり入れて生きたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	・家族の来訪が主になっている状況だが、そのほかの方の来訪もある。 ・定期的に来訪をしてくださる家族がほとんどの状況である。	○	職員としてきちんとした、対応をおこなう。
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホーム内の学習にて周知できている。	○	正しく理解を得ておくためにも再学習を行っていく。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	取り組んでいる。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	自室内で過ごされる際の所在確認、様子の把握のため訪室をしている。	○	居室や生活範囲内での障害となり得るもの等への配慮を常に行い、危険回避に努めていく。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	危険には配慮をしている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	入居者の一人ひとりの事故防止としての取り組みにまでは至っていない。	○	事故回避をする意味でも、一人ひとりにあわせた取り組みを行っていき、全職員が把握をしていく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	・年1回の救急講習への参加。 ・緊急マニュアルの把握。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	・地域の方の参加の避難訓練の実施。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	・一人ひとりのリスクは話し合い、ある程度の対応は把握している。 ・家族へも説明をおこなっており、ある程度の理解は得ている。	○	家族との話し合いの機会の提供。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	・他の職員への速やかな報告、連携。 ・医療機関への連絡をおこない、指示をあおぐよう努めている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ファイルに綴じてあり、すぐに目が通せるようにしてある。	○	・疾病、薬についての正しい知識の理解の学習会。 ・確実な服薬支援への統一した方法の検討。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	・排便チェック表を取り入れ、確認をおこなっている。 ・食事、水分摂取等も気をつけている。 ・日中の活動に関しては対応不足を感じられるところもある。	○	・薬に頼りがちなところもあり、日中の生活の見直しをしていく必要があるように思われる。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	就寝前のケアが主になってしまっており、毎食後実施できていない。	○	毎食後の口腔ケアへの取り組みの徹底。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
77	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>一人ひとりに合った対応をおこなっている。</li> <li>全体的に水分摂取量は少なく、摂らなければならない方ほど不足気味である。</li> </ul>	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>常に声掛けや、すすんで提供をしていく。</li> <li>不足がちな方へは摂取量の把握をおこなっていく。</li> </ul>
78	<p>○感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>食前の手洗い、手拭、テーブル等の消毒の実施。</li> <li>マニュアルの把握。</li> </ul>	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>予防の継続化</li> <li>学習会にて、再認識の場を設ける。</li> </ul>
79	<p>○食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>通知文や常に心がけており注意している。消毒剤の使用をしている。</li> </ul>	○	<p>食材管理、衛生管理については、取り組みが確実でないところもあり検討が必要</p>
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	<p>○安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>整理整頓に心がけている。</li> </ul>	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭的な雰囲気が出せるような取り組みの必要性</li> </ul>
81	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>花等を取り入れ季節感を感じていただくようにしたり、配置換えについては最小限にし、混乱されずに生活が出来るように配慮している。</p>	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>障害物への撤去により事故防止</li> <li>環境整備</li> </ul>
82	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>確保しており、思い思いに過ごしていただくようにしている。</li> </ul>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来ているところもある。居室によっては殺風景なところもある。	○	こちらからアプローチを行い、出来るだけ使い慣れた馴染みのものを持ち込んでもらうようにする。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	・換気は常に実施できている。 ・室温についても入居者に確認を取りながら、過ごしやすいように対応できている。		
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・廊下の手すりがほとんどなく、身体機能が十分に生かせることができない。 ・車椅子の使用に関しては狭すぎて、自操はむずかしいと思われるところがある。	○	廊下等への手すりの検討
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	・混乱、失敗に関してはできるだけ回避するように支援している。	○	・自信をもっていただけるように、職員が出すぎず支援していく。 ・混乱や失敗も未然に防ぐように努めていく。 ・情報の共有化
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	すべての方ではないが、職員と一緒に、畑や花作りを楽しみ、草取り等の活動している。	○	重度化もあり、できる方が少なくなる中ではあるが、残存機能を生かし、また気分転換等も兼ね、活用していくように取り組んでいく。

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
		○	③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある		①毎日ある
		○	②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています		①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
		○	③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・ひだまり新聞の発行。
- ・カフェの定期開催…手作りお菓子の提供。
- ・野菜づくり、花植え。
- ・今までしてこられたこと、今できることを継続していけるよう援助していること。